

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<p>○自己評価では、全項目でほぼ目標が達成されたと言ってもよいレベルであった。しかしBの評価をつけた項目と、A評価ではあったものの引き続き指導していく必要がある項目がある。その改善が次年度への向上につながると思うので、以下のような取組をしていく。</p> <p>①業務改善に関しては、本年が昨年度に比べ職員数が1名増となったものの、研究発表会に向けての準備や一人の職員が複数の校務分掌を持っているため目標に反し平均残業時間数は微増した。次年度は、児童の学力保障のための研修会や児童と関わる時間等を確保しつつ○時△分には全員退勤するという目標を設定し、行事の精選・共有データ(紙の資料等)を充実することで業務の効率化をさらに推進していく。</p> <p>②安全・安心に過ごせる環境づくりに関しては、年度当初に計画した訓練が新型コロナウイルス感染症対策のため実施できなかったものがある。7月に警察官を講師に招いて「防犯教室(不審者侵入対応訓練)」は実施できたが、交通教室は、各学級でDVD視聴して担任が指導した。次年度は、交通教室を従来通り実際に子供たちに体験させながら進められるよう計画する。また他の訓練では、本校は職員数が少ないので、有事の時に人員が足りなくて子供の安全確保が難しい局面が予想されるので、本年度は、訓練中に声を掛け合い役割分担の確認や協力の依頼を行ったり、避難経路の確認を行ったりすることに特に力を入れた。子供たち自身にも考え行動する資質・能力をつけるために、訓練前に災害に関する指導を行い、訓練の最後に「このような場合にはどうするか」や、「なぜ、このような避難の仕方が必要なのか」といった質問等を行うことで児童一人一人に考える時間を設定した。次年度は、計画通りの訓練ではなく、職員が出張等で人員が足りない場合や休み時間など、有事の時には不安がある(本校のウイークポイント)事項について対策を考え訓練を実施していく。</p> <p>③基本的な学習習慣づくりは、ほぼできているが、早寝・早起き、ゲームの時間等、今後も家庭と連携した取組を進めていく。</p>
----------------------	--

<b>2 学校教育目標</b>	<p>心豊かで 自他ともに大切に し 共に学び合う たくましい子どもの育成</p> <p>～正しく、かしこく、たくましく～</p>
-----------------	---

<b>3 本年度の重点目標</b>	<p><b>1 主体的な学習(かしこい子ども)</b> ①よく見て、よく聴き、考えを持ち、伝え合う子 ← 自己表現、伝え合う学習 ②主体的に学習に取り組む子 ← 計画的学習、そしてふり返り</p> <p><b>2 思いやり(自分も周りの人も大切に子ども)</b> ①よさを認め合い思いやりの心をもつ子 ← 出番・役割・責任・承認・居場所・活躍する場づくり ②「ありがとう」を大切にすること</p> <p><b>3 健康・安全(元気で落ち着いた子ども)</b> ①自ら行動するたくましい子 ← あいさつ、靴の整頓、立腰教育 ②基本的な生活習慣づくり・体力づくり運動</p>
-------------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。					・学力向上対策コーディネーター(早瀬) ・研究主任(永田)
	○基礎基本の定着と主体的に学ぶ態度の育成	○授業で分かったことや大切なこと伝え合う活動を取り入れ、「授業が分かりやすい」と思う児童を90%以上にさせる。 ○家庭学習の定着、自主学習を促進させ、学年に応じ、家庭学習の時間を達成する児童を85%以上にさせる。	・「考えを交流する時間」や「ふり返りタイム」を毎日の授業の中に取り入れる。 ・自主学習に積極的に取り組むように段階的に支援していく。 ・家庭の協力を得るために、家庭学習の手引き・学校通信・学級通信などで啓発を図る。					・学力向上対策コーディネーター(早瀬) ・研究主任(永田)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童中心に考えを伝え合い、議論する活動を道徳の授業の中に仕組み、道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にさせる。	・年1回「ふれあい道徳」の授業を実施し、学校便りや学級通信等によって、道徳教育や道徳授業の取組の様子を家庭に発信する。					・道徳教育推進教師(中島) ・各学年担任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○道徳や学級活動の時間に「いじめ」に係る授業実践を全学級で行う。 ○「いじめ」の予防、早期発見に努め「学校が楽しい」と思える児童が85%以上になることを目指す。 ○相手を思いやる気持ちを育て、児童の人権感覚を育てる。	・各学年の発達段階に合わせた「いじめ」に関する授業を全学年で行う。 ・学期に1回、教育相談週間に合わせて「心のアンケート」をとり、担任や職員全体が関わって教育相談を行う。 ・「人権集会」を年5回以上開き、職員が輪番で人権や共生、協力などの話をする。					・生徒指導主任(松本) ・人権・同和教育担当者(佐藤)
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎日々の授業や行事等の取組を通して、自分の成長(スモールステップ)を感じる児童を85%以上にさせる。	・様々な教育活動において地域のゲストティーチャーとの交流や、朝会の中で地域のよさに触れさせ、郷土を愛する心や感謝の心を育てる。 ・読書活動の充実を図り、自らの将来に希望をもたせる。 ・キャリアパスポートを活用し、自分の成長の跡を振り返ることができるようにする。					・教務主任(早瀬) ・各学年担任
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○「大好き良い子カード」の生活チェックの点数が90点以上の児童を90%以上にさせる。	・大好き良い子カードの自己評価などを参考に、日頃から褒めることやアドバイス等を通して生活習慣の定着を促す。					・体育主任(稲富) ・保健主事、給食主任(佐々木)
	○安全に関する資質・能力の育成	○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・下校指導で、日々交通事故に関する注意喚起を行う。また、登下校での危険な事案があれば、すぐに全児童へ伝える時間をつくり、全員が安全に対する意識がもてるようにする。					・安全指導担当(中島・池田) ・教頭(古賀)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・予定退勤時刻を明確にし、仕事の軽重を付けて業務に取り組む。 ・金曜日の定時退勤日を徹底するために、朝と退勤10分前に呼びかける。 ・行事や校務分掌に係る業務の標準化を図り、年間の計画を立てる。 ・学年ごとのフォルダを整理し、教科フォルダ、行事フォルダ等を作り、お互いのデータを共有化する。 ・提出期限がある業務に関しては、早めに担当者に伝え、余裕をもって取り組めるようにする。					・教頭(古賀) ・事務主査(中本)
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
○特別支援教育	○教員の専門性と意識の向上	○特別な支援、配慮が必要な児童について職員全体で共通理解を図るために、児童理解協議会(年間4回)を行う。	・児童理解協議会やケース会議において、支援が必要な児童について共通理解を図る。 ・夏季休業中に外部講師を招いて、特別支援教育の研修を持ち理解を深める。					・特別支援教育コーディネーター(松本)
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)						
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)						

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
-----------------------	----------------------------